

昭和58年7月豪雨災害(島根県西部)

東元定雄(中国出版所)
Sadao HIGASHIMOTO

昭和58年7月豪雨は典型的な梅雨末期の集中豪雨で、島根県西部を中心とし山口県東北部と広島県北部とを含む地域に記録的な大雨をもたらした。7月20日から7月23日までの間の総降水量は、益田市634mm、三隅町633mm、浜田市522mmで、特に降雨の激しかった7月23日の時間降水量は、浜田市で91mm(0時40分—1時40分)、益田市で90mm(6時—7時)を記録した。死者・行方不明者は、島根県107人、山口県5人で、道路・建物・耕地・山林等の被害額は、中間集計でも3,416億円に達した。

被害の特に顕著な地域は益田市から三隅町をへて浜田市に至

る地域であるが、この地域では至る所で山崩れ・崖崩れ・土石流が発生しており、河川の増水と重なって災害を激甚なものにしている。この地域の地質は、三郡変成岩、白亜紀・古第三紀花崗岩一斑れい岩類、第三紀火山岩類及び泥岩砂岩層、第三紀末—第四紀初の都野津層等から構成されている。これらの岩石や地層はもとも山崩れや地滑りを起しやすい地質であるうえ、本地域では風化が著しい。しかも島根県西部の山々は急傾斜の斜面を持つことが多い。本地域におけるこの度の豪雨災害の激甚さの根本原因は、本地域の地質的・地形的条件と豪雨との競合にあると考えられる。



写真1 浜田市種出町中場の災害現場(15人死亡)

崩壊面上半部は主に三郡変成岩 下半部は石英閃緑岩類から構成されている



写真2 益田市飯田・角井付近の山崩れ・土石流
地質は三郡変成岩とそれを不整合に覆う久利・川合層及び郡野津層からなる（アジア航測撮影）

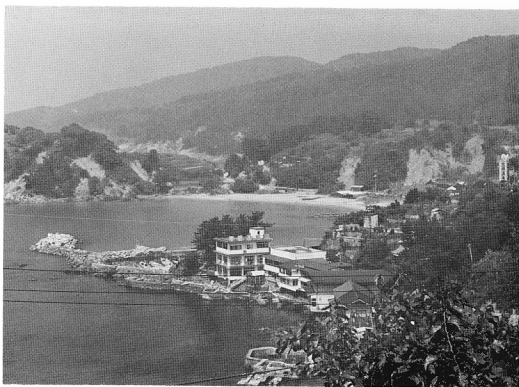


写真3 益田市土田町付近の山崩れ・土石流
地質は花崗閃緑岩



写真4 三隅町須津地区の災害現場。三郡変成岩の流れ盆崩壊 下はすべり面





写真5 土砂・流木を含む洪水流によって壊滅的な被害をうけた三隅町中心部
土蔵の壁の線は洪水流の高さを示す

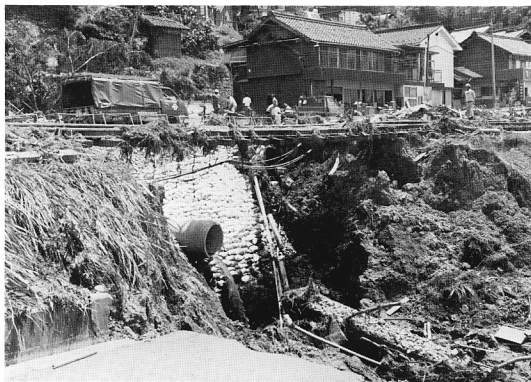


写真6 左は路床が流失し宙吊りになった国鉄山陰本線
(益田市大浜町 復建調査設計提供)